

オニカナワラビ *Arachniodes chinensis* (Rosenst.) Ching
オシダ科 Dryopteridaceae

1. 利用可能部位：葉柄と中肋

2. 組織形態：

葉柄の下部の断面は葉の上面がやや潰れた円～楕円形（A）。葉柄上部では上面に2筋の稜が出て間は深く落ち込み溝となる（B）。表皮は平滑で、表皮細胞は径が小さく、やや厚いクチクラがある（E）。下表皮は径が小さく細胞壁の厚い柔組織で、内層に向かい順次径が大きくなり、壁が薄くなる（D, E）。維管束はタツノオトシゴ型が2本、上面側にあり、下面側には細くて丸い維管束が葉柄基部では2本（A）、上部に行くと互いに癒合して1本となる（B）。タツノオトシゴ型の維管束の側方や上側に通気孔条がある（D）。

3. 利用例：知られていない

4. 遺跡出土遺物：知られていない

図説明

A：葉柄基部の断面。上面がややへこむ楕円形。タツノオトシゴ型維管束が2本、丸い小維管束が2本。B：葉柄上部の断面。上面に2つの稜が発達し、間はへこんで溝となる。タツノオトシゴ型維管束が2本、丸い小維管束が1本。C：タツノオトシゴ型維管束と小維管束。D：葉柄上部の一部拡大。タツノオトシゴ型維管束とその側方に通気孔条がある。E：通気孔条、表皮、下表皮、皮層の組織。

